



ABS 秋田放送開局 60周年
ZIPANGU 秋田展、はじまる!!! 2013.9.14 SAT - 11.10 SUN

名だたる現代アーティストを集めた特別展「ジパング展」がいよいよ秋田ではじまりました。秋田県出身の鴻池朋子をはじめ、今年開学した秋田公立美術大学准教授山本太郎、客員教授会田誠の作品も展示されます。上小阿仁プロジェクト、ゼロダテ、角館ネオクラシック、あきたアートプロジェクトも同時期開催で、今年の秋田は燃えてるよ。ジパング展には山口晃、池田学、棚田康司、など話題のアーティストが勢揃いしているから、一見の価値、おおあります。リーフレットは赤版白版の2パターン、掲載画像が違うので見比べてみてね。昨年、東山魁夷記念日経日本画大賞を受賞した鴻池朋子の「シラ」が秋田初登場。大きなドクロとにらめっこして、鴻池の幻想世界をのぞいてみよう。まだまだ話題作、問題作でんこ盛り。他イベントとリンクして、この秋は現代アートで決まりです。(担当：山本、藤井)

渡邊佳織 〆(寸法改) 2011 © WATANABE Kaori Courtesy of Imura art gallery
 山本太郎 花下遊楽図 2011 © YAMAMOTO Taro Courtesy of Imura art gallery
 山口晃 裏表圖 (2点組の1点) 2007 © YAMAGUCHI Akira Courtesy of Mizuma Art Gallery
 鴻池朋子 シラ - 谷の者 野の者 (部分) 2009 © KONOIKE Tomoko Courtesy of Mizuma Art Gallery

ZIPANGU
 ZIPANGU
 ZIPANGU
 ZIPANGU
 ZIPANGU



美術館の庭で、小さな花を見つけました。

ARK no.66

秋田県立近代美術館ニュース・アーク

Akita Museum of Modern Art



おいしそうな静物画を描きました。
 6月9,23日,7月21日・油彩画教室



笑顔がすてきな、岩合さん!!!
 5月26日・岩合光昭さんのアーティストトーク

13 2013年度・上半期の美術館レポート

- 特別展**
- 岩合光昭写真展「どうぶつ家族」 4.20-6.26
 - 藤城清治の世界展 光のシンフォニー 7.6-9.8
 - ジパング展 沸騰する日本の現代アート 9.14-11.10
- コレクション展**
- 第1期 巴里の小西正太郎 4.10-7.7
 - 第2期 勝平得之が歩んだ道 7.10-10.6
- ミュージアムコンサート**
- マンドリンとギターコンサート 5.19
 出演：平文恵さん(マンドリン)、神原順一さん(ギター)
 - 箏とコントラバスコンサート 7.14
 出演：田中郷子さん(箏)、佐藤毅さん(コントラバス)

- 美術館教室**
- 日本画教室・初夏を描く 6.1,6.2
 講師：櫻尾康子(当館主任学芸主事)
 - 油彩画教室・果物を描く 6.9,6.23,7.21
 講師：渋谷重弘氏(洋画家)
- みんなの教室**
- 木のクラフト教室 8.4
 講師：木村雅洋(当館学芸主事)
- キャラリートークなど**
- 岩合光昭写真展「どうぶつ家族」
 - ギャラリートークなど 4.21,5.12
 - アーティストトーク & サイン会 5.26
 - 藤城清治の世界展 光のシンフォニー
 - サイン会 7.28,8.3,8.25,9.7
- コレクション展**
- ギャラリートーク 4.14,4.28,7.13,7.28



みんななかよし。
 6月27日・増田小学校のみなさん



本格的に岩絵の具と格闘しました。
 6月1,2日・日本画教室



箏の調べにバスがよりそいます
 7月14日・箏とコントラバスコンサート

i information
 ■これからの展覧会■

- 企画展**
- 没後 80 年平福百穂展 11.16-2014.2.2
 - 開館 20 年美術館の眼Ⅶ展 2014.2.7-4.20
- コレクション展 Art Report Akita 2013**
- 第3期 珊瑚会と金鈴社の画家たち 10.9-2014.1.13
 - 第4期 佐々木裕久展(仮題) 2014.124-4.6

美術館 HP はもちろん、「秋田県立近代美術館」を検索!

●つくる、しる、たのしむ●

- つくる**
- みんなで作る
 小学生低学年以下の児童から一般まで参加できます。
 小学生低学年以下の児童が参加する場合は保護者要同伴。
 ジパング展ワークショップ『お・かお』 10.6
 『墨と顔彩で描こう』 11.24
 『クリスマスグッズ』 12.1
 - 専門的につくる
 中学生以上一般を対象にしています。
 彫刻教室 10.20,11.10 (全2回)
- しる・たのしむ**
- ミュージアムコンサート 12.21,2014.2.9

秋田県立近代美術館
 Akita Museum of Modern Art

開館時間 9:30-17:00(入館は 16:30 まで)
 休館日 12/29-31、2014/1/14-23 (予定)
 交通 車●秋田自動車道・横手インターより3分
 バス●横手バスターミナル(RJ横手駅近く)～ふるさと村 15分

- 2013年9月30日発行
- 発行編集・秋田県立近代美術館
 013-0064 秋田県横手市赤坂字富ヶ沢 62-46
 TEL 0182-33-8855 FAX 0182-33-8858
 E-mail akitamma@rnac.ne.jp
- デザイン・T.Yamamoto ■印刷・三森印刷
- 表紙写真「クロモジの花」撮影：菊地信夫



弦の音色にやさしさが
 5月19日・ギターとマンドリンコンサート



ふむ、ふむ、むむむ!
 5月23日・山内中学校のみなさん



どうぶつ家族

Mitsuaki Iwago Photographs

岩合光昭写真展

平成25年 4月20日(土) - 6月26日(水)

動物も、私たちも、 みんなどこかでつながっている

特別展レポート

動物写真家である岩合光昭さんをお招きしてのアーティストトーク。

岩合さんのファンをはじめ、たくさんのお客様が会場につめかけました。

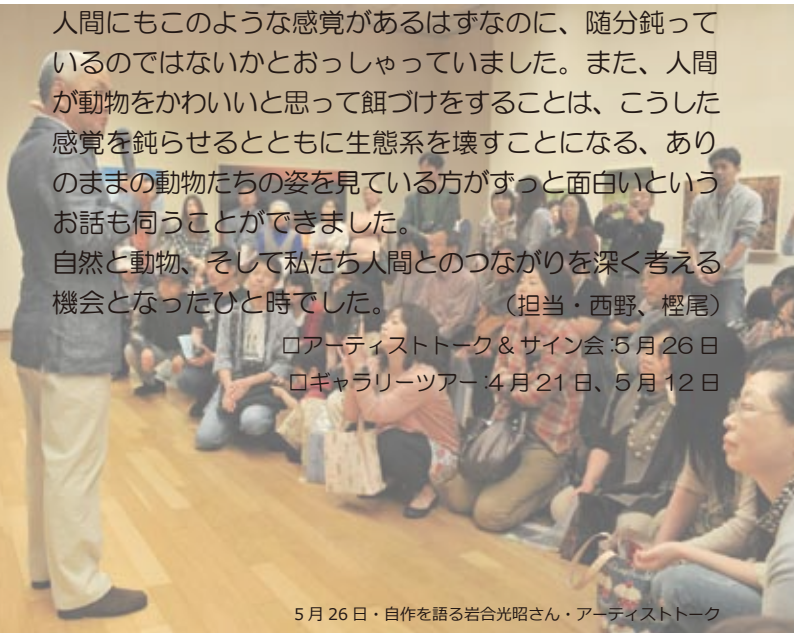
和やかな雰囲気の中、動物の珍しい生態や撮影時のエピソードなど、作品の前に移動しながらトークが行われました。撮影にかける岩合さんの熱い思いと動物たちへの愛情が伝わってくる内容で、会場にいらっしやる全員がうなずいたり、ほほ笑んだりしながらトークに聞き入っていました。

中でも印象に残ったのはサルが桜の花を食べるお話です。偶然、サルが桜の花を食べている珍しい光景を目にした岩合さんは、その瞬間を撮ろうとカメラを待ち構えていたそうです。でも、サルは花に見向きもしない。花はまだ満開に咲いているのにどうしてだろうと思い、花を食べてみたところ、甘くも何ともない、むしろまずい。岩合さんによれば、きっとサルが花の食べ頃を本能的に分かっていて、匂を逃さず食べたのだろうということでした。本来、人間にもこのような感覚があるはずなのに、随分鈍っているのではないかとおっしゃっていました。また、人間が動物をかわいいと思って餌づけをすることは、こうした感覚を鈍らせるとともに生態系を壊すことになる、ありのままの動物たちの姿を見ている方がずっと面白いというお話も伺うことができました。

自然と動物、そして私たち人間とのつながりを深く考える機会となったひと時でした。(担当・西野、櫻尾)

□アーティストトーク&サイン会:5月26日

□ギャラリートーク:4月21日、5月12日



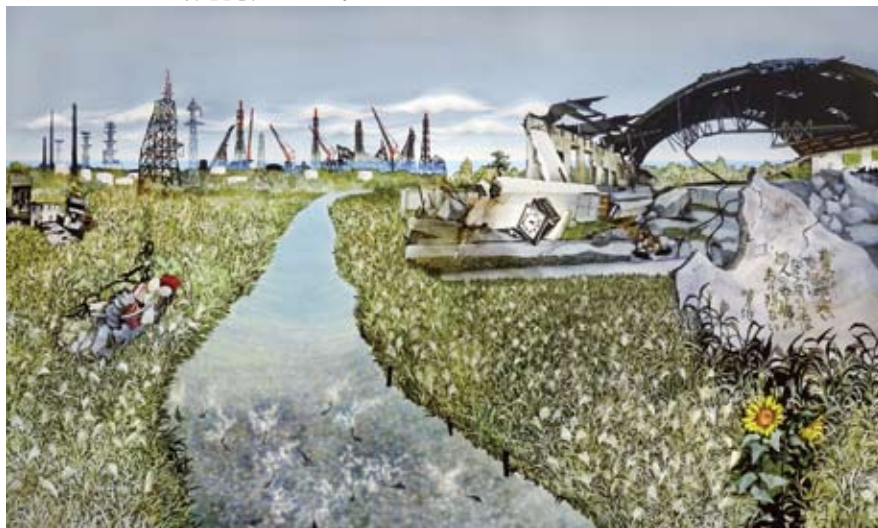
5月26日・自作を語る岩合光昭さん・アーティストトーク

光のシンフォニー SEIJI FUJISHIRO EXHIBITION 藤城清治の 世界展 魅力健在、 当館 2度目の開催

平成25年 7月6日(土) ▶ 9月8日(日)

特別展レポート

当館では2年ぶり2度目の開催となった藤城清治さんの展覧会です。光と影がおりなす独特の影絵の魅力は健在で、今回は藤城さんの生み出す幻想的な世界に浸ろうと、多くの方が観覧会場に足を運ばれていました。このたび新たにお目見えした「クリスマスの鐘」「ひなぎく」「ムネアカドリのお話」などの作品には、人生における教訓や悲哀なども盛り込まれており、前回に比べて全体的に落ち着いた渋めのセレクトという印象です。秋田で初展示の中でも特に注目を集めていたのは、東日本大震災をテーマにした作品群でした。



藤城清治「福島 原発ススキの里」2012年 ©Seiji Fujishiro/HoriPro

「福島 原発ススキの里」という作品には、画面に津波が直撃した時刻であろう午後3時10分で停止した時計が描かれており、震災の爪痕を強く感じさせますが、中央に流れる小川には小さな魚たちが姿を見せていて、大災害からの復興を願う藤城さんの想いが伝わってきます。被災地より展覧会を見に来られた方の中には、作品をご覧になり涙ぐむ人もいらっしゃいました。会場では藤城先生が被災地で実際に取材する様子を記録したドキュメンタリー映像も上映され、震災を描いた重厚な雰囲気のある作品からは、妖精や動物たちが登場するお馴染みのメルヘンチックな作風とはまた違う、藤城先生の新たな魅力を感じられた方も多かったのではないのでしょうか。(担当・木村、櫻尾)

□サイン会:7月28日、8月3日、25日、9月7日



巴里の 小西正太郎

アート・レポート・アキタ 2013
コレクション展第1期 1922-1926

2013. 4.10(水) - 7.7(日)

パリの面影を 作品にたどる

コレクション展レポート

第1期のコレクション展では、洋画家・小西正太郎をピックアップしました。画家としての再起をかけて渡ったパリ時代(大正11年~14年)の作品群とともに、小西が撮影した写真や、現地で収集した蔵書、ポスターなどを展示しました。

1920年代のパリの街並み、交流した画家、モデルなどを撮影した写真群からは、芸術の都と称され世界中のアーティストを引きつけていたパリの面影を、いくらかでも感じていただけたのではないかと思います。また、小西が日本に持ち帰った蔵書やミュシャのポスターからは、パリのアートシーンや小西の趣向を垣間見ていただけたのではないのでしょうか。当時台頭していた様々な表現に迷いながらも、古典に立ち返り、サロン入選を果たすまでの小西の足跡を、お楽しみいただけたのであれば幸いに思っています。(担当・奈良)

□ギャラリートーク:4月14日、28日

勝平 得之が 歩んだ道 Tokushi Katsuhira, the way to printmaker 1904-1971 吾、之を得たり ART REPORT AKITA 2013・コレクション展第II期 2013. 7.10(水) - 10.6(日)

コレクション展レポート

秋田市出身の版画家・勝平得之をピックアップし、彼の初期から晩年にかけての作品73点と、秋田にゆかりのある作家の作品10点を紹介しました。得之の作品の一つ「七夕」は、今回のためにマット台紙を切り直したものです。理由は、それによって現れる印影を見ていただくためでした。得之の作品の端には、作品名や制作年などを記す印が押されています。中でも「父為吉製紙」という印は父の漉いた和紙に摺られた作品だけに押されたものであり、得之と父の合作の証ともいえるものです。印の種類は多数あり、今回はそれらの印影を集めた印影集も展示しました。これによって普段とは違った視点から作品を味わっていただきたいと思います。(担当・藤井)

□ギャラリートーク:7月13日、28日



木のクラフト教室・受講生の作品:8月4日

木のクラフト教室

「木でつくろう! くつつくメモホルダー!!」

ものづくりに 熱中した、 一日でした。

みんなの教室レポート

昨年度のクラフト教室では「ふだんの生活で使えるものをつくる」ことを目指して、木の「メモばさみ」を制作しました。今年はその内容をアレンジし、小さくて強力なネオジウム磁石を内蔵した木の「メモホルダー」を作ってみました。磁石を差し込んだ形を二つつくことで、机の上に置くメモばさみとして使い、さらに磁石の力で冷蔵庫の壁面などにもメモをとめておけるのです。ネオジウム磁石自体が高さも直径も5mmと小さいので、木で作る形や模様のアレンジが比較的自由に出来ました。ただし、磁力で壁にメモをとめる必要があるため、あまり大きいものは作れません(落ちてしまうので)。参加された方々は、これらの構造や制限を確認した後、思い思いに各自の制作に取り組みました。くつつけたオリジナルの形にこだわってつくる人、事前に準備した寄せ木の素材を使い、木の模様を生かすきれいに仕上げようとする人などさまざまで、制作時間を十分に使い、最終的にはそれぞれの満足に行く作品が完成しました。(担当・木村)

□みんなの教室「木のクラフト教室」:8月4日



勝平得之が歩んだ道・展示室